

石橋信彦先生追悼記念講演会によせて

広島大学理学部 熊丸尚宏

来る12月4日、名古屋工業大学において、和田弘子教授のお世話で第19回フローインジェクション分析講演会が故石橋信彦先生の追悼記念講演会として開催される。

1991年8月に石橋先生が急逝されてから早くも二年が過ぎた。フローインジェクション分析研究会の発足は、先生が22人の世話人を代表されて、その設立趣意書で、「最近の国内外における”フローインジェクション分析法”の研究の進展並びにその普及にはめざましいものがあります。申すまでもなく、フローインジェクション分析法は、理、工、農、薬、医学等の諸々の学問分野と関連した基礎研究、技術開発、品質管理分析等極めて幅広い分野への対応が可能で、将来においても益々の発展が期待されております。……」と呼びかけられたのが発端である。その後、日本分析化学会の研究懇談会へと発展して、間もなく十周年を迎えようとしている。先生の蒔かれた種子は、年2回の講演会の開催と本誌の刊行という形で具体化され、それらが現在も受け継がれて、わが国のFIAの啓蒙と普及に大きく寄与している。特に本誌は、この分野の専門誌として世界で初めてのものであり、Chemical Abstractsにも収録されて、その存在は世界に知られるようになっている。1991年8月、熊本工業大学で開かれたFlow Analysis V 国際会議への先生のご貢献も忘れることはできない。そうして1990年には、先生のご研究の集大成ともいえる「高感度・高選択性化学分析法の開発」のご業績により日本化学会の学会賞を受賞された。

先生の輝かしいご業績のなかから、以上のようにフローインジェクション分析研究懇談会に残された足跡をたどるとき、「フローインジェクション分析方法通則」(JIS K0126)が制定されて、個別規格への導入の道が開かれたことやFIAの研究面でわが国が質、量ともに世界のトップレベルに立つに至っているという現況を見るにつけても、今更ながら先生の先見性に敬服するところである。

今回の追悼記念講演会に際し、われわれは発会の初心にかえり、これから益々FIA法の発展に努力していきたいと自戒を込めて思う次第である。